

夢のつばさプロジェクト 2013年春の交流会 学生報告

【日程】2013年3月24日

【場所】仙台市／仙台市科学館、榴ヶ岡公園、榴ヶ岡市民センター

【参加者】5名（前回までのキャンプ経験者）、学生9名、大人スタッフ2名

■実施に至った経緯と目的

これまで、特に夏休みなど、部活や塾の日程が重なって夢のつばさキャンプに参加できない中高生から、仲良くなった大学生へ、残念がるメールをもらったりすることがありました。「子どもたちが成人になるまで支援を続けていく」というこのプロジェクトを進めるにあたって、忙しい中高生が参加しやすいキャンプを行いたいと考えて、今回、学生から「日帰り・東北開催」イベントを発案しました。進級の節目の季節である春に再会する場を設けることで、馴染みの顔ぶれとなった子どもたちが「仲間感」を深めてくれたらよいとの想いもありました。

加えて、これまでキャンプ開催時には、大学生は保護者の方たちと直接話をする機会が少なかったので、交流を持ちたいと感じてきました。今回のイベントでは「活動報告」という形で、希望される保護者の方たちとお話する機会を設け、信頼関係を築くと共に子どもたちの普段の状況を伺えたらよいと考えました。

学生が提案したところ本プロジェクトにかかわる方々の賛同を頂くことが出来、新しい試みとして学生主体で実施することが決まりました。

■キャンプ活動概要

【全体スケジュール】

10:00	仙台駅集合
10:00~10:30	電車移動
10:30~13:00	仙台市科学館・昼食
13:00~13:30	電車移動
13:30~15:30	榴ヶ岡公園
15:30~16:45	榴ヶ岡市民センター
16:45~17:00	電車移動
17:00	仙台駅解散

※希望される保護者のみ、16時より市民センターにて学生代表者2名・引率スタッフ2名と懇談形式で活動報告。

○集合

朝9:50に仙台駅に集合しました。子どもたちは保護者の方々に駅まで送っていただきました。

「久しぶり！」と再会を喜び合いました。待っている学生たちを見つけて顔がほころぶ子どもたちの笑顔が印象的でした。さらに嬉しかったことは、冬キャンプに参加できなかった中学生も参加してくれたことです。昨年の夏以来の再会でしたが身長も伸びて大人びていて成長が感じられました。送ってくださった保護者の皆さんと団欒しながら、温かい雰囲気でのいよいよ春の交流会がスタートしました。



○仙台市科学館

電車で仙台市科学館へ向かいました。車内では小さくまとまって行動しマナーを守って行動することができました。



科学館に到着すると、子どもたちが学生の手を引いて興味のある方向に無邪気に駆けていきます。科学館の中は大きく分けて展示ゾーンと体験ゾーンがありました。中学生など学年が上の子は学生に解説してもらいながら展示ゾーンを楽しみ、下の子たちは体験ゾーンに夢中で、シャボン玉に囲まれたり、小さな竜巻を起す機械の前で歓声を上げていました。それぞれが思い思いの楽しみ方をしていました。ゆっくりと時間を取って話をしながら自由に楽しむという、いつもの夢のつばさキャンプの雰囲気でした。一通り回ったところあいにお昼の時間となり、科学館内で皆でお弁当を食べました。



○榴ヶ岡公園

13時に科学館をあとにして榴ヶ岡公園に移動し、外で思い切り遊びました。笑い声を上げながら楽しんだのはフリスビー、ドロケイ、シャボン玉など、凝った企画ではなく日常の遊び。子どもたちは元気いっぱい、当日は非常に寒く最高気温は8℃だったのですが、「暑い」といって半そでになる男の子もいました。学生たちも子どもの元気さに引っ張られ体力を使い果たすくらい遊び回りました。運動となると消極的になってしまう子もフリスビーを追いかけてはしゃいでいたことが学生たちにとっては本当にうれしかったです。女の子がつまらない思いをしないか不安もありましたが、学生一人一人が意識してコミュニケーションを取ったこともあって、終始笑顔で過ごすことができました。



○榴ヶ岡市民センター

15時半ごろ、外で遊び尽くして疲れたころあいを見て、隣接する榴ヶ岡市民センターに徒歩移動し、室内で楽しい時間を過ごしました。ハンカチ落としやなんでもバスケットなど、全員が楽しめる企画を意識して行いました。朝から一緒にいたので、すっかり馴染みアットホームな雰囲気です。皆リラックスしていい時間を共有できたと思います。



○活動報告

16時前に、「活動報告」に参加希望な保護者2名が市民センターにいらしてください、学生代表者2名・引率スタッフ2名と懇談しました。学生側からは、これまでのキャンプの写真を一緒に見ながら、夢のつばさキャンプでの子どもたちの様子についてお話をしました。徐々に緊張がほぐれ、談笑する良い雰囲気の中で、保護者の方たちは、子どもたちの普段の様子を少しずつ語ってくださいました。

「震災から2年が経ったけれど、3月になると報道の影響もあって不安定になってしまうこと」、「震災後の一年間は勉強が全く手につかず成績が一気に落ちたこと」、「児童精神科に通っていたこと」など、重たい空気になれば明るく笑い話を交えながら、ゆっくりとお話してくださいました。私たちは、一言一言かみしめるようにお聞きしました。

夢のつばさへの感謝の想いもお話し頂き、活動の価値を実感することが出来た一方で、まだ課題が残る現状を知らされました。今後の夢のつばさの活動を考える良い機会になったと思います。

○解散

17時に仙台駅にて、「活動報告」に参加されなかった保護者の方々とも合流しました。子どもたちも学生も疲れた様子ではありましたが、あつという間の一日の楽しい時間を振り返り、別れを惜しみました。「また夏にキャンプで会おうね!」と言い合いながらスタッフは子どもたちを見送りました。

■今後の課題と展望

今回のイベントでは、シャイな中高生と元気な小学生を仲良くさせることが目標の一つでした。これまでのキャンプでも学年を超えた子ども同士のタテの関係性が薄い部分があると感じていたので、今キャンプで払拭したかったのです。しかしなかなか思った通りになじむことが出来ませんでした。中高生が大学生と一緒に、お兄さんお姉さんとして下の子どもたちの面倒を見るのが当たり前になるには、もう少し時間が必要のようです。次回の夏キャンプにおいてはタテの関係性の醸成につながる企画をさらに皆で考えていこうと思います。

他方、保護者の方から直接子どもたちや家庭の様子をお聞きすることが出来たことは大きな収穫でした。夢のつばさプロジェクトへの信頼感が高まったことを感じる事が出来ましたし、活動の意義や今後を改めて考え直す機会になったからです。中でもさらなる支援の必要性を大きく感じたことは2つあります。

1つ目は学習支援です。親御さんを失ったあと勉強に取り組む精神状態でなく、成績ががくんと落ちてしまい、追いついていない現状がありました。特に受験を控えた中学生などに対する学習支援を、夢のつばさとしても行えるかどうか検討したいです。2つ目は沿岸部在住でない保護者同士の語りです。今回活動報告にご参加くださったお二人ともがやや内陸にお住まいでした。内陸では遺児を抱える保護者の数は非常に少なく、一つの学校に数名と言います。スクールカウンセラーの設置もされていないことが多く、遺児が思春期で反抗期になったとき「自分が負担をかけすぎているのではないか、気持ちをわかかってあげられてないのではないか」と不安に思っても、周りに相談できる人がいないのです。今回の活動報告でお二方がそれぞれの事情をお話される中で、一般的なケースや自分の状況に似たケースがあることを知って安心感を得ていたように感じました。夢のつばさによって子どもたちは繋がりました。さらに保護者同士が繋がる場を用意することは意義があることだと思います。これからも同じように時間がとりたいです。また、気楽に駆けこむことが出来る「相談窓口」の設置も、再度検討が求められるのではないのでしょうか。

■春の交流会を終えてひとこと

今回のイベントを含めてこれまで計6回のキャンプを開催してきました。子どもたちには常連の顔ぶれが増え、彼らの関係性は益々深まっています。キャンプでは普段体験できないサイエンス、音楽や文化に触れる「新しい体験」と同時に、参加者同士の信頼関係が築けているからこそ「親戚の集まりのような安心感」が同居した、夢のつばさプロジェクトらしいキャンプが実施できています。着々と継続的に活動してきたことの価値が見え始めています。

震災からはちょうど2年がたちました。次なる支援に向けて、様々な復興支援団体が活動を終えたり活動方針を改めています。夢のつばさプロジェクトも次の段階を考えるころではないかと思えます。2年の活動のおかげで保護者の方とも信頼関係が築くことが出来、徐々に家庭状況や参加者の個性も見えてきました。継続的に活動が行われ、かつ決して規模が大きくはない夢のつばさプロジェクトだからこそ、「参加者全体」への支援だけでなく「個々人」への一対一の支援が出来るのではないのでしょうか。上で触れた学習支援や相談窓口など、一般的な団体には出来ないような、より家庭の状況に合わせた支援の可能性を模索する一年にすることを提案したいです。

さて、今回のイベントでは運営の全ての段階において学生に多くを任せて頂きました。役割が増えた分、責任も大きくなります。力不足を痛感する部分もありましたが、室伏先生や滝澤先生をはじめ当日引率の白井さんや長道さんなど多くの方々に支えていただきながらなんとか成功にこぎつけることができました。心から御礼申し上げます。また震災から二年が経った今も活動を支援して下さる皆様のおかげで子どもたちの笑顔を見ることが出来ます。本当にありがとうございます。学生一同、一層力を合わせて子どもたちのために活動に取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

学生代表 東京大学理科一類2年 武井聡